



萬國新聞

明治五壬申正月

第三號



西垣文庫
文庫10
7367
3



緒言

一邑人智ノ進ムハ一邑ノ開化ニシテ一州ノ開化ニアラス一州人
智ノ進ムハ一州ノ開化ニシテ全國ノ開化ニアラス若僻邑遠郷
ノ人ヲシテ皆其智識ヲ都府人ノ如クナラシメント欲スルモノハ
新聞紙ニ若クハナシ今ヤ新聞紙ノ世ニ行ハルモ鮮シトセス
然レトモ彼ニ精フシテ此ニ粗ナルモノアリ因テ今亦
官准ヲ得テ一種ノ新聞ヲ編纂廣布シテ萬國新聞ト為ス
是他ニ粗ナルモノヲ拾録シテ我ニ精シカラシメシヲ要ス同好ノ
諸君等彼此參觀セハ以テ時勢ノ全體ヲ得ヘシ而シテ其全體
ヲシテ僻邑遠郷ニ及ホシ全國人智ヲシテ都鄙ノ別ナキニ
到ラシムル是我等希フ所ナリ

萬國新聞明治五年第三号

ジヤバンガゼット新聞

明治四年辛未十一月七日刊行

佛飛脚船入津

蒸氣船ハリス名船將ジヨツチ名入佛國ノ郵便ヲ載セテ第十

二月十日香港ホンコン出帆今朝入津セリ

倫敦ロンドン第十二月五日 英國ノ太子ト共ニスカルボロツ名地

ニ赴キタルイール、礪チエストフヒールド君ハ劇ハダシキ熱

病ニテ死去シタリ 英國ノ太子ハ機嫌ヨシ



萬國新聞明治五年第三号

獨逸ニテハ其国ノ兵隊ヲ以テ佛ノ官署ヲ圍ムベシトノ布
令アリ

倫敦第十二月一日 英国ノ太子少シハ快方ナリ去レ氏熱
病ハ少モ減ゼズ

獨逸公會ニ於テ執政デルブツク欲曰ク千八百七十四年ニ
至ラバ佛ノ兵力必ス大ニ増スベシ依テ獨逸ニ於テモ嚴ニ
其備ヘヲ為サシムベシト

倫敦第十一月十一日 タイムス新聞ニ曰ク倫敦ニ於テ拂
フベキ獨逸償金ノ手形ハ千零二十五万磅ノ高ニ至ルベシ
サイゴン第十二月二日朝八字二十五分

東方ノ英國陸軍屯所ハ今度香港ヨリ新嘉坡ヘ移サルト
ノ嚮ナル風説アリ且其常備兵ニハ海軍兵一大隊ヲ加フル
由ナリ

ストツクホルム地ニ於テエス堀割ヲ通シ直ニ支那ト
ノ貿易ヲ開カン為メ一ノ社中ヲ立テリ此社中第一ノ蒸氣
船ハ即今ホジクスウオール地ノ製鍊所ニ於テ船卸シセリ
長サ二百尺頓數一千帆柱四本アリ

各國雜報

佛國總議官ハ大統領ヲ置テ政府ヲ立ントス、コルチカ島ニ
テハ故ノ佛國太子拿破崙ヲ立テントシタレ氏入札ノ時僅

二二札ノ違ヒニテ落札ニ至ラズ太子ハ其後此島ヲ去レリ
陸軍士官新聞紙へ種々ノ一ヲ書スル一ヲ制禁シタリ「ホシ
エルケルチーへ名ハレジランオスオノール名軍隊長官トナ
リタリ

日耳曼國 執政退職ス近日新執政ヲ置クベシ

和蘭蒸氣船會社ニテ凡哇へ送ルベキ荷物送状ノ箇條ニ違
背シタリ安特堤アムステルダムニ於テハ送状ノ質物流行ノ由ナリ三千万
ノ元金ヲ以テ安特堤銀行ト名クル新銀鋪ヲ開キタリ

オーストランド新報抄訳

明治四年辛未九月十九日刊行

日本官人出立ノ事

吾輩昨夕新聞ヲ得タリ曰ク本日出帆ノ蒸氣アメリカ船ノ
旅客多キガ中ニ華盛頓ノ人エス、ペルシヤイン、スミッツ君
及ビ細川潤次郎君モ乗組タリトスミッツ君ハ故ト華盛頓
府政廳ニ於テ法律ノ補助官タリシガ今度 皇國日本政府
其國ノ為メ同氏ヲ萬國公法ノ商議官ニ命ジタリ其職務ハ
必ス緊要ノ事ニシテ是迄日本政府ニテ外國人ニ委任スル
所ノ類ニアラザルベシ而テ同氏法律ノ学ニ曉ニシテ礼節
ニ達シタルヲ知レル者ハ同氏ヲ此任ニ充ツルヲ以テ至当
ト為ス近頃日本政府ハ大改革ヲ成シテ侯伯食邑ヲ廢シタ

レハ内國ノ法律及ヒ万国公法モ隨テ全ク改正スベレ則チ
萬國公法商議ノ新官ハ其國政ニ関スルヤ甚ダ廣ク將來成
功ノ日ニ至ラバ善惡トモニ衆人之ヲ觀ルベシ

細川君ハ日本ニ於テ農業ノ事ヲ委任セラル、人ナリ今度
内國事務局執政ノ命ニヨリテ米國ニ来リ過日、桑法朗西是
格ニ於テ興行アリシ人工物展覽會ヲ見分シ加之大西洋沿
海ノ大都會ヲ巡行シ諸邦諸邑ニ至リテ各般ノ製造局ヲ觀
察シタリ是蓋シ其製造法ヲ日本ニ傳ヘント欲スルナリ同
氏帰國ノ時搬車蒸氣打椿機種々ノ舟車乘車蒸氣毛織機械
各種ノ新機械農具其他必要ノ品物ヲ船ニ積ミタルヲ以テ

是ヲ察ルベシ細川君使節ト為リテ他ニ習慣セル人ノ補助
ナク斯ノ如ク諸事整ヘルハ果シテ日本國ニ於テ貴重スベ
キ人物ナルヲ知ルベシ向後我米國ニ使スル者ハ皆此ノ如
ク才能アリテ實用ヲ達スベキ者ヲ撰テ委任アラニテ和米
西國人民ノ為ニ希望スル所ナリ

ジヤパンガゼット新聞

明治四年辛未十一月二十四日橫濱刊行

魯西亞領滿州

近頃口ジウヲストツク地ヨリ歸著シタル貴人アリ同人ノ
說ニ魯西亞國ハ近頃得タル領地ニ於テ肝要ナル變革ヲ企

テ漸々其道ニ進ム事ノ評判ヲ報告セリ

レジウオストツク^地ノ形勢ヲ見ルニ當時ノニコライウス
ク^地ノ如ク大東洋ノ魯西亞海軍局トナリ且ツ黒龍江近邦
ノ首府トナリテ廣大ナル城郭ヲ構ヘ波戸場ヲ築キ造船場
ヲ建ツルノ用意アリ初メ此地ハ新港ニ要用ナル建物ヲタ
テニハ其材料ナク又彼処ニ其材料ヲ運送セント欲スレ
ハ莫大ノ入費ナラシ^トヲ魯西亞國政府へ報告シタル者ア
リ因テ去秋中支那ヨリ北方ニ官人ヲ送りシニ「レジウオス
トツク^地ノ近邊ニハ花崗石^{御影石}甚ダ多ク又此港ト「バシ
^地ノ間^{距離}三十五マイル」ニハ美麗ナル大理石多ク又其地面ニ

豊饒ノ土アリ之ヲ堀レハ最上ナル粘土ヲ得ベシ此粘土ハ
以テ磚石ヲ作ルニ宜シク且又磚石ヲ燒キ或ハ石炭ヲ造ル
ニ用ユベキ石炭ハ其近傍ヨリ得ベキ由ヲ報シタリ如此^ト
レハ此地ハ後未必ス魯西亞領滿州ノ首府トナラシ然ルト
キハ魯西亞帝國ノ官人此ニ集レハ又必ス電線輻湊スル所
ノ中心トナリ東滿州ノ莫大ナル穀物及^ヒ礦物ヲ此港ノ倉
廩ニ収メハ終ニハ亞細亞洲大東洋岸ノ一大港トナルベキ
ハ期シテ俟ツベシ此ノ如ク魯西亞ハ其政府ヲ此ヨリ南ニ
移スニ至ラハ魯西亞ノ國力愈々盛大ニシテ更ニ非常ノ大
變革アルベシ故ノ海軍提督コロ^人ニハ黒龍江近邦ノ鎮

臺ニ任セラレタリト云コロヲシ氏ハ久シク英國及ヒ米國ニ
在留セシ人ニシテ博ク政學ニ通シ必ス其任ニ堪ユベシト
云同氏遠カラズ其任ノ地ニ到着スベシ且ツ既ニ商業規則
及ヒ運上目錄ヲ新撰シ千八百七十二年ノ始ヨリ施行スベ
シ又新ニ規則ヲ設ケ法ヲ寬ニシテ此新邦ニ商民ヲ引カン
ト欲スト云但故アリテ石炭ノ輸出ヲ禁シ却テ鴉片ノ輸入
ヲ許セリ然レ氏燒酒ノ類ハ租稅甚タ貴クシテ殆ト制禁ス
ルニ似タリ此稅則ヲ立テタルハ何等ノ理ナルヤ之ヲ知ル
ト亦甚ダ難カラス是レハ氣候ニ從テ定ムル者ナラシカ或
ハ是レ追群ヲ為シテ他國ニ移住シ来レル粗暴卑賤ナル人

種ヲ愛セザルナラシカ若シ此ノ如クシバ魯西亞人滿州人
朝鮮人ハ勿論支那人ニ於テモ必ス大害アルベキナレバ
此諸國ノ政府ニ於テ若シ之ヲ知ラバ務メテ此大害ヲ豫防
スルナルベシ我輩當其此ノ如キ企アラシトテ恐レテ此
新聞紙ニ之ヲ論シタリ然ルニ果シテ先見ノ如ク新ニ彼地
ニ住居スル朝鮮人支那人ヲ井ラント歸國人其外ノ人民
ニ弊害アル者ヲ給與シ後ニ此等ノ人民自ラ之ヲ求ムルニ
至ラシムルナルベシ又此人民等之ニ慣レテ後ハ悔ユル氏
及ハザルベシ殊ニ朝鮮人ハ凡テ懈怠ニシテ職業ニ勉強ス
ル事ヲ好マズ徒ニ政府ヨリ給與スル處ノ物ヲ受テ無益ニ

之ヲ費スノ礙アリ其一例ヲ擧ケテ云ハレニハ我輩ニ此事
ヲ告知シタル人彼地ノ海岸ヨリ其陣所マテ同氏所持ノ皮
文庫三ツヲ荷ハシメテ三圓ヲ與ヘレト募リシニ雇ハルミ
キ者一人モナク僅ノ此運送ニ三人ニテ數分時カ、リシト
ナリ如此ナレバ政府ニ於テハ支那人ノ少シク希望スル所
アル者ヲ求メ農工ノ貢稅ヲ免除シ且ツ各其生産ヲ与ヘテ
其勞力ノ賃ヲ附与セント欲セリ

薩哈連島ハ徒罪場トナシ當今黑龍江邊ニ散乱セル罪人ヲ
集メ此島ニ大ナル石炭山アル由ナレハ之ヲ堀リ出スノ用
ニ使役スベシコレジウヲストツク地ノ北東三十里ニ在ルナ

ホドカ地ノ近邊及ヒコレジウヲストツクノ南東ニ在ルヘルミ
子ーシユン島ハ是迄魯國帝族ノ私領ナリシガ今度更ニ國
領トナルヘシ然ル片ハ此地ヲ領セシ帝族ハ是迄開拓其外
ノ費用トシテ數百萬ルーブル魯國ノ貨幣ヲ受取ルベシト云猶此
事ニ就テハ委シク探索スベケレ氏當時其細說ヲ尋ヌレハ
甚ダシク誹謗スル說ノミナリ

第十一月三日我九月廿一日以來西洋新報

明治四年辛未十一月十六日橫濱刊行ガゼット新聞抄

譯

以太利ニテハ僧侶ノ領地ヲ取り上ケントヲ議シタレ氏異

論起リテ遂ニ果サス

佛國政府ニテハ償金トシテ出サシガ為ニ今度五フランク
ノ紙幣ヲ発行ス其總計千萬フランクナリ

西班牙政府ニ抗衡シタル兵隊ノ徒黨ハバルセロナ^地ニテ
見顯サレタリ五艘ノ軍艦ヲミリル^地ニ送リタリ此地ハ
兼テムール^地細人ニ取囲マル所ナリ

明治四年辛未十二月十八日横濱刊行ヘラルド抄訳
此程又日本人強盗ヲ為シタル風説アリ一昨日商人用事ア
リテ浦賀ニ往カントシテ金沢海道ニ出テ漸ク金沢ニ到ラ

レトスル頃三人ノ盜賊カヲ抜キ列子テ商人ヲ脅ヤカシ待
テ物ハ此方ヘ渡セト云掛ケタレハ商人ハ逆モ遁レ難シト
思ヒ直ニ持タル物ヲ盜賊ニ渡シタレハ賊ハ彼商人ノ持
チタル金銀ヲ殘ラス奪^テ乘^テハ着服マデモ奪ヒ取リテ何方
ヘカ去リタリト云

新發明ノ巧器諸品ノ賣買ノ弘メ引札等ノ類右冊中ニ
編入致度候ハ一度出版一行廿三字ニ付價ニ夕八分五度ハ
五分引十度ハ壹割引ニテ引受出版致候

一新聞十行廿三字ノ一片紙ヲ投シ玉ハ製本三冊ヲ呈ス
一同十行廿三字半片紙ヲ投シ玉ハ製本二冊ヲ呈ス
但奇事異聞何事ヨラス新聞ヲ寄セ玉ハ刊行發兌スヘシ
然シ無名ノ書ハ編入スル能ハス浮言造説ヲ恐ルカ故願クハ
寄玉ヲ書ニ住所姓名ヲ記シ投シ玉ハニテ願フ

一萬國新聞一冊定價銀ニ夕每月五號或ハ六號出版致シ候
發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二割引
二十冊以上引受分ハ二割半引

發行書肆

東京日本橋南一丁目

北畠茂兵衛

同芝神明前

山中市兵衛

同日本橋川瀬石町

村上勘兵衛

西京東洞院三條上町

村上勘兵衛

大坂本町四丁目心齋橋東入

書籍會社

賣弘